

患者さんと病理医—病理診断をご存じですか



精度の高い病理診断で、患者さんに合った最適ながん治療を目指す



病理診断科では、患者さんから採取された組織や細胞を顕微鏡で詳しく調べ、病気の有無や種類を正確に診断します。病理診断はすべての臓器や診療科を対象とする重要な医療行為であり、治療方針の決定に欠かせません。診断を担う病理医は、患者さんにとって身近な存在であり、がん診療においても、重要な役割を果たしております。組織診断では生検診断や手術検体診断、術中迅速診断、細胞診などを行い、がんの種類や悪性度、広がりの程度などを正確に把握することで、個々の患者さんに適した治療方針の決定をサポートいたします。当院の病理部には高い専門性と技術力を有する病理技師が在籍しており、特に細胞診を担当する細胞検査士は、がんの診断に大きく貢献しております。病理診断は、がん診療の基盤です。私たちは各診療科と情報交換を密に行いながら、免疫組織化学や遺伝子解析を併用し、最新の知見に基づいた質の高い病理診断を患者さんに提供し、最適な治療へつなげてまいります。



病理診断科 教授
石田 和之

地域の先生方と連携しながら、がん診療に不可欠な病理診断を適切に提供することで、地域全体の医療水準の向上に貢献するとともに、病理医を目指す学生の教育にも力を注いでいきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

獨協医科大学病院

Dokkyo Medical University Hospital
〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町大字北小林880
TEL:0282-86-1111(代表)

乳 腺 科 TEL: 0282-87-2084 外来受付電話
泌 尿 器 科 TEL: 0282-87-2208 外来受付電話
病 理 診 断 科 TEL: 0282-87-2180 外来受付電話



獨協医科大学 創立50周年記念事業



50周年記念事業に関する
お問い合わせはこちらまで

獨協医科大学創立50周年記念
事業推進室
企画広報部内
TEL:0282-87-2107

DOKKYO MEDICAL SCOPE



— 獨協の今を識る — vol.8

乳がんと前立腺がん

～世界の男性・女性で最も多いがん 最新の治療について～



増加する乳がん～診断と治療～



患者さんの背景に寄り添う、乳腺専門医による高度な医療の提供



現在、乳がんは日本では9人に1人の女性が発症するといわれ、特に40代後半から60代にかけて発症率が高くなります。罹患率は年々増加傾向にあり、栃木県においても乳がんの患者さんは急増しております。当院は地域がん診療連携拠点病院として、2016年に乳腺センターを開設いたしました。ここでは乳がんの診断、術前術後の薬物療法、手術、再発治療、緩和治療など多岐にわたる診療を行い、患者さんに最適な医療を提供しております。乳がんの診断に欠かせない画像診断には、マンモグラフィや超音波(エコー)、MRI、PET-CTなどを用いて、病変の有無を確認いたします。病変が疑われる場合は、細胞診や針生検、マンモトーム生検によって組織を採取し、より詳しく病理診断を行います(右図参照)。主な治療法としては手術、抗がん剤治療、ホルモン治療、放射線治療など患者さんの状態に応じて組み合わせた治療を行い、再発リスクを低減します。手術では、乳房温存手術や乳房切除術を患者さんの希望やがんの進行度に応じて選択し、整容性と治療効果を両立できるよう努めています。また、形成外科・美容外科と連携して、乳房再建術にも対応しております。専門の医師や看護師が患者さんやご家族に寄り添い、きめ細やかなサポートを提供いたしますので、どうぞ安心して当院にお任せください。



乳腺科／乳腺センター 教授
中川 剛士

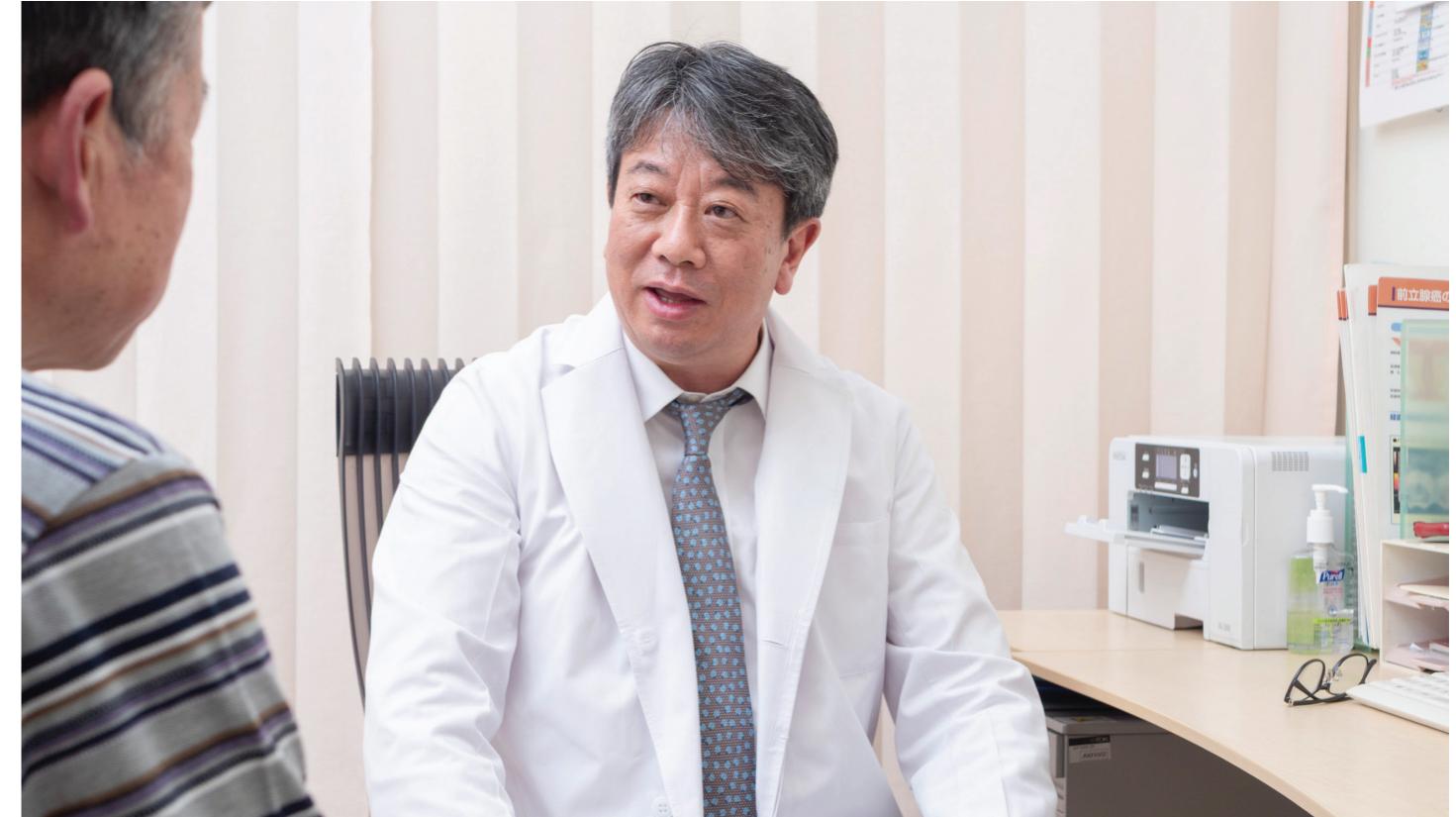
患者さん1人1人が抱える背景に寄り添い、不安なく治療を受けていただけるよう心がけております。趣味のラグビーで培った情熱と、あきらめない精神を活かし、日々の診療に取り組んでいます。今後は乳腺専門医不足という問題の解決に向けて、専門医の養成にも力を入れていきたいと思います。



男性が罹患する最多のがん～前立腺がん～



幅広い前立腺がんに対応する、総合的な治療計画と迅速な医療体制



当院の泌尿器科では、排尿や生殖に関わる臓器の疾患に幅広く対応しており、小児から高齢者まで多くの患者さんを診療しております。なかでも前立腺がんは高齢男性に多くみられ、早期発見と適切な治療が求められます。当院では、前立腺がんに対し、PSA(前立腺特異抗原)検査やMRI、超音波検査などを用いた精密な診断を行っております。診断結果に応じて低リスクがんには機能温存手術、高悪性度がんには拡大リンパ節郭清を実施し(グラフ①)、希少転移を伴うがんには積極的な手術を行うなど患者さんの状態に合わせた最適な治療法を選択しております。また、2012年から導入しているダ・ヴィンチ手術支援ロボットにより、低侵襲手術を実現しております。これにより、身体への負担を軽減しつつ、精度の高い手術を可能にしております。さらに、膀胱や腎の手術にもロボット支援手術を取り入れ、患者さんにとって負担の少ない治療を提供しております(グラフ②)。当院の強みは、放射線治療やホルモン療法、薬物療法などを組み合わせた総合的な治療計画と、手術の待機期間を可能な限り短縮し、迅速な治療を提供できる医療体制にあります。ぜひ私たちに、お気軽にご相談ください。



泌尿器科 教授
安土 正裕

超高齢化時代において、前立腺がんは専門医から診療所の医師まで、診療の機会が多い疾患です。当科は「日本ロボット外科学会学術集会」での受賞実績があります。医師はみな前立腺がん診療に真摯に取り組み、患者さんの立場になって最善の医療を提供できるよう努めております。

